

厚生科学研究  
(子ども家庭総合研究事業)

子どものためのインフォームドコンセント  
を推進するプリパレーションツールの開発

平成13年度研究報告書

平成14年 3 月

山城  
雄一  
郎

主任研究者 山城 雄一郎

# 目 次

## 総括報告書

子どものためのインフォームドコンセントを推進するプリパレーションツールの開発

主任研究者報告 山城雄一郎 .....645

## 分担研究報告

子ども向けのプリパレーションについての調査

.....帆足 英一.....648

小児外科を有する子ども病院のプリパレーション実施状況に関する実態調査

.....野村みどり.....677

欧米の子ども病院におけるプリパレーションに関する実態調査

.....野村みどり、夏路瑞穂、柳澤 要.....699

参加型コミュニティのニーズ調査に関する研究

.....赤澤 晃.....788

子どものためのインフォームドコンセントを推進する  
プライバシーツールの開発

主任研究者 山城雄一郎（順天堂大学医学部小児科）

【研究要旨】

我が国の小児医療施設に於いてプライバシーに対する理解が進み、アンケート調査ではプライバシーは大変必要とする回答が半数近くに達した。そして、一部ではすでに実施されつつあることから良質で効果的なプライバシーを開発することが急がれる。

分担研究者：

野村みどり（都立保健科学大学作業療法学科）

帆足英一（都立母子保健院）

赤澤 晃（国立小児病院アレルギー科）

柳澤 要（千葉大学工学部デザイン工学科都市環境建築計画講座）

夏路瑞穂（中京女子大学児童学科）

A. 目的

日本の子ども病院および小児外科施設におけるプレイセラピー、プライバシーの実態と課題を調査し、プライバシーツールの開発に資する基礎的データを得るため、1. 小児科病院 2. 小児外科を有する病院に対してアンケート調査 3. 欧米の施設見学・調査を行った。

B. 対象および方法

1. 日本の子ども病院：小児総合医療協議会に所属する25病院でプライバシー・ツールとクリティカルパスについて調査した。

2. 小児外科施設：小児外科を有する全国の303病院にアンケート調査票を送付し、小児科部長、小児外科系部長、小児科婦長、小児外科系婦長、放射線科技師長に記入を依頼した。

3. 欧米調査では、先進的子ども病院11病院と2大学を対象にヒアリングと施設見学を実施し、第7回病院の子どもヨーロッパ協会 EACH 会議に参加した。

C. 結果

1. 日本の子ども病院：

1) 全国の子ども病院 25 施設に調査票を送付し有効回答は 19 施設からあり、これを分析した。

2) 19 施設のうち、プライバシーについては 15 施設 (79%)、クリティカルパスについては 6 施設 (32%) から回答があった。又、写真およびビデオによるプライバシーツールの回答は 15 施設 (79%) であった。

3) プライバシーの報告は、内科系・外科系・その他から計 46 例あり、同一病院内における重複例を含めると、内科系 11 例（一般小児科 5 例、アレルギー科 2 例、内分泌科 1 例、循環器科 1 例、腎臓科 1 例、血液科 1 例）外科系 11 例（小児外科 3 例、整形外科 2 例、形成外科 1 例、耳鼻科 2 例、眼科 2 例、心臓外科 1 例）であった。その他放射線科 4 例、栄養課 3 例、薬剤課 2 例、検査科 4 例、他手術室 6 例、ICU 1 例、外来系 4 例であった。

4) プライバシーによる子どもへの効

果としては、「多少効果的」17例、「意欲的に参加」が8例「効果なし」2例に留まった。一方、保護者の理解や反応としては、「多少好感」が12例、「好感」が14例であり、「反応が乏しい」は認めなかった。

- 5) プリパレーションとクリティカルパスには、人気キャラクターのイラストやぬいぐるみ、塗り絵などが使用されていることが多かった。また紙芝居やビデオを用いて親と一緒に子どもに説明するという施設も複数認められた。
- 6) プリパレーションとクリティカルパスの使用により、看護師からは均一な医療サービスを提供できるようになったと回答した施設も複数認められた。

## 2.小児外科施設：

138病院から調査票を回収し（回収率45.5%）、356人の回答を得た。分析の結果、プレイセラピーは44%、プレパレーションは40%の回答者が「大変必要」と考えているが、十分提供していると回答した病院はわずか2%であった（一部提供は、各々51%と42%）。提供者はプレイセラピーが保育士の42%、プレパレーションが看護師の76.4%が最も多かった。

## 3.欧米調査：

病院における子どもに不安やストレスをもたらす生活面を含むすべての状況に対する説明と理解の促進、さらに感情の表出のための支援を含むプリパレーションにおいては、人形、写真ファイルなどのツールのみならず、それらを個別のニーズに応じて使いこなして支援する専門家自身、及び、プリパレーションを行える待合室、親が付き添える麻酔導入室や回復室などの病院環境もまたツールとして重要であることがわかった。

## D.考察

- 1.日本の子ども病院：プリパレーションやクリティカルパスは、手術や検査前の親と子

どもの緊張をほぐし、治療に対して子ども自身が前向きに取り組んでいくのに役立っている。

- 2.小児外科施設：行政や病院管理者の認識の向上が多く挙げられた。プレパレーションツールの開発を全体で取り組んだ病院はなかった。プレパレーションは3歳から小学校低学年までの年齢の子供に特に必要と考えられており、今後必要な条件整備として、行政や病院管理者の認識の向上が多く挙げられた。プレパレーションツールの開発を全体で取り組んだ病院はなく、一部で取り組んだ病院が38%であった。

## 3.欧米調査：

プリパレーションの対象は、診療を受ける子どもや付き添い家族のみならず、見舞いに来るきょうだいや友達、退院後のクラスメート、健康な子ども達にも必要になる。五感を活用して、正確な診療の内容・方法・過程・環境・空間などに関する総合的な情報提供を行うためには、ツールは各病院の実態に則して開発することが不可欠であり、手術部の待合室、麻酔導入室、回復室など、診療部の計画・改善策、家族や専門職の役割を含めたプリパレーションツールの開発・評価が必要といえる。

## E.その他

分担研究者の赤澤らのグループは二つの試みを行った。

1. プレパレーションツールを用いた小児アトピー性皮膚炎の患者家族教育：  
アトピー性皮膚炎患者の治療には自宅でのセルフケアが欠かせない。特にスキンケアの仕方や外用剤の使い方、ステロイド外用剤から保湿剤への離脱の仕方などは、具体的に指導しないと自己流に陥りやすく、良好なコントロールが得にくい。また、口頭だけの説明では良好なコンプライアンスを得ることは難しく、プリパレーションツールを用いて具体的なセルフケアのイメージを定着させることが重

要である。そこで、20組ほどの小児アトピー性皮膚炎患者と家族にプレリミナリーな試みとしてプリパレーションツールを用いた外来患者教育を試みた。治療成績は良好で、多くは数週間以内に皮疹が完全に消失し、ステロイド外用剤から徐々に保湿剤へと移行することが可能になった。さらにAD特異的QOLスコア(CDLQI)や家族の負担感(DFI)などにも著しい改善が認められた。

2. インターネットによる患者参加型のオンライン・コミュニティの試み：  
インターネット上で患児参加型のオンライン・コミュニティを運営した結果、互いの病気の体験を問うもの、自己表現が多く見られ、体験者同士がコミュニケーションする場が必要であることが明らかになった。同じ病気の子との出会いは、自分だけではないという孤独感の減少をもたらす。今後、院内のインフラ整備や年齢別コミュニティの設定を通して、患児同志のコミュニケーションを促進することが求められる。

厚生科学研究（子ども家庭総合研究事業）  
分担研究報告  
子ども向けのプリパレーションについての調査

分担研究者 帆足 英一  
（東京都立母子保健院 院長）  
研究協力者 山崎 知克  
（東京都立母子保健院 小児科）

【目的】

本研究の目的は、子どものためのプリパレーションツールの開発に先立ち、日本における子どもへのプリパレーションの実態を調査し、子どもへのインフォームドコンセントがどのように行われているかについて現況を把握することである。子どもを対象としたプリパレーションとは、手術や麻酔、処置や検査、あるいは治療や入院生活のガイダンス等を説明するため、幼児や学童向けの絵本やイラスト、人形、あるいは写真やビデオ等を用いて、子どもが治療を理解し、不安を軽減し、積極的に参加できるようにしようとするものである。本研究は、最終的に各病院の工夫を集積して、日本における小児に向けた実際的なプリパレーション体制を確立し、これを各病院で共有していくことにある。また、子ども向けのクリティカルパスについても併せて調査を行った。

【対象・方法】

小児総合医療施設協議会に所属する病院25施設に対して、それぞれの施設において実際に使用されている子ども向けのプリパレーションと、クリティカルパスについての情報を収集し、内容の検討を行った。また説明に用いるプリパレーションツールやビデオについても、写真撮影またはビデオ複製にて同様に収集し、検討を加えた。本調査の調査用紙については、文末に資料として添付した。

また、それぞれのプリパレーションとクリティカルパスを使用することによる子どもへの効果と、保護者の理解や反応について、同時に調査した。

【有効回答】

全国の子ども病院25施設に調査票を郵送し、23施設から回答があった。5施設は白紙であったため、有効回答数は18施設、回答率は72%であった。

18施設のうち、プリパレーションについて回答があったのは16施設（89%）で、クリティカルパスについて回答があったのは

6施設（33%）であった。また、写真およびビデオによるプリパレーションツールの回答があったのは16施設（89%）であった。

## 【回答の概略】

### 1. プリパレーションについて

1) 子ども向けのプリパレーションを実施していると回答した診療科は、一病院内の複数診療科の回答を含めて数えると、計46例の回答を得た。

内科系で11例であった。その内訳は、一般小児科5例、アレルギー科2例、内分泌科1例、循環器科1例、腎臓科1例、血液科1例であった。

また、外科系は11例であった。その内訳は、小児外科3例、整形外科2例、形成外科1例、耳鼻科2例、眼科2例、心臓外科1例であった。

その他、放射線科4例、栄養科3例、薬剤科2例、検査科4例の他、手術室6例、ICU1例、外来4例から回答が得られた。

2) プリパレーションの内容としては、一つの診療単位における複数のプリパレーションを含めて数えると、全プリパレーション数は98例に達した。

内容別分類では、小児科の糖尿病・肥満についてと、小児外科の疾患・手術説明が共に9例と最も多く、手術室の術前オリエンテーションが6例、小児科の気管支喘息についてが5例の順で上位を占めた。

3) プリパレーションによる子どもへの効果としては、「多少効果的」が50例（51%）、「意欲的に参加」が29例（30%）であり、「効果なし」は2例（2%）に留まった。

一方、保護者の理解や反応としては、「多少好感」が31例（32%）、「好感」が50例（51%）であり、「反応が乏しい」は認めなかった。

但し、これらの質問の回答では、子どもの効果について15例（15%）、保護者の理解や反応について17例（17%）では、無回答であった。

以上の結果から、プリパレーションによる効果は、子どもに対するものもさることながら、保護者の理解や反応に対してより効果的であることが示唆された。

4) プリパレーションツールには、人気キャラクターのイラストやぬいぐるみ、塗り絵などが使用されていることが多かった。イラストやぬいぐるみは、部屋の中だけでなく廊下にも貼ることで、子どもが病院のどこにいても、不安な気持ちや嫌な気持ちから気を紛らわせることができるよう工夫している施設が多かった。また、紙芝居やビデオを用いて、親と一緒に説明するというプリパレーションを4施設に認めた。

5) プリパレーションに対する肯定的な意見を要約すると、以下の3点となった。

(1) プリパレーションとクリティカルパスの使用により、均一な医療サービスが提供できるようになり、以前よりも家

族や子どもとのコミュニケーションが  
図られるようになった。

- (2) 子どもや保護者が、治療に対して前向きに考えて行かれるようになった。
- (3) 手術や検査についてのオリエンテーションにより、子どもの不安が軽減された。

否定的な意見としては、以下の3点に要約される。

- (1) 手術など実際の写真を見て、かえって怖がる児がいた。
- (2) 子どもに対する疾患の説明が具体的でない。
- (3) 年齢や理解度に応じたプリパレーションツールが必要である。

## 2. クリティカルパスについて

1) 子ども向けのクリティカルパスを実施していると回答があった診療科は、一病院内の診療科の重複を認めて数えると、小児科1例、循環器科2例、小児外科2例、心臓外科1例、整形外科1例、耳鼻科1例、眼科1例の合計で9例であった。

2) クリティカルパスの内容としては、一つの診療単位におけるクリティカルパスの重複を認めて数えると、その総数は19例であった。

3) クリティカルパスによる子どもへの効果としては、「多少効果的」が9例(47%)、「意欲的に参加」が0例(0%)であり、「効果なし」を2例(10%)認めた。

一方、保護者の理解や反応としては、「多少

好感」が4例(21%)、「好感」が6例(32%)であり、「反応が乏しい」は認めなかった。

但し、これらの質問の回答では、子どもの効果について8例(42%)、保護者の理解や反応について9例(47%)では、無回答であった。

以上の結果から、プリパレーションによる効果は、子どもに対するものもさることながら、保護者の理解や反応に対してより効果的であることが示唆された。

## 【結果】

以下に詳細な結果について報告する。

### 1. プリパレーションの実施状況について

#### 1. 放射線科 5例

- 1) 放射線検査 4例、放射線治療 1例
- 2) プリパレーションの形態；パンフレット 2例、ビラ 1例、ビデオ 3例
- 3) 対象年齢；幼児 4例、小学生 5例、中学生 3例、高校生以上 0例
- 4) 使用頻度；対象児の全部 3例、対象児の一部 2例、まだ未使用 0例
- 5) 子どもへの効果；

ほとんど効果は見られない	0例
治療をある程度理解し、多少協力的になった	4例
治療を理解し、意欲的に参加するようになった	1例
- 6) 子どもへのプリパレーションに対する保護者の理解や反応；

ほとんど理解せず、反応も乏しい	0例
-----------------	----



ある程度理解し、多少好感を持ってくれた  
2例

よく理解し、好感を持ってくれた  
3例

7) 使用してみたの感想など

◆肯定的意見

- ・パンフレットは特に保護者に好評で、非常に喜ばれている。
- ・心臓血管撮影や超音波検査など、安静仰臥位でいなければならない検査時に、気を紛らすために好きなビデオを見せる。
- ・放射線治療に当たって、事前に技師がその子の理解度に合わせて部屋、機械、治療内容などを話す。一回の説明時間は15～30分くらい。事前に行うためか、治療に対しての恐怖感は少ないと思われる。

## 2. 整形外科 4例

- 1) 入院オリエンテーション 2例、環境整備 2例
- 2) プリパレーションの形態；パンフレット 2例、写真 2例
- 3) 対象年齢；幼児 3例、小学生 3例、中学生 2例、高校生以上 2例
- 4) 使用頻度；対象児の全部 4例、対象児の一部 0例、まだ未使用 0例
- 5) 子どもへの効果；  
ほとんど効果は見られない 0例  
治療をある程度理解し、多少協力的になった 4例  
治療を理解し、意欲的に参加するようになった 0例
- 6) 子どもへのプリパレーションに対する保

護者の理解や反応；  
ほとんど理解せず、反応も乏しい 0例  
ある程度理解し、多少好感を持ってくれた 2例  
よく理解し、好感を持ってくれた 2例

7) 使用してみたの感想など

- ◆肯定的意見
- ・子どもが好きなキャラクターを使用。冊子を読み終えた後、家族からの質問を受ける。
  - ・写真つきの説明文書なので、手術を受けた後どういう風な様子になるのかがイメージできて良い。
- ◆否定的意見
- ・反対に写真を見て、かえって怖がる児もいる。

## 3. 心臓外科 4例

- 1) 術前オリエンテーション 2例、疾患・手術説明 1例、検査 1例
- 2) プリパレーションの形態；パンフレット 1例、ビラ 2例、写真 1例
- 3) 対象年齢；幼児 3例、小学生 3例、中学生 3例、高校生以上 3例
- 4) 使用頻度；対象児の全部 3例、対象児の一部 0例、まだ未使用 0例
- 5) 子どもへの効果；  
ほとんど効果は見られない 0例  
治療をある程度理解し、多少協力的になった 3例  
治療を理解し、意欲的に参加するようになった 0例
- 6) 子どもへのプリパレーションに対する保護者の理解や反応；

ほとんど理解せず、反応も乏しい 0例  
 ある程度理解し、多少好感を持ってくれた 1例  
 よく理解し、好感を持ってくれた 2例

7) 使用してみたの感想など

◆肯定的意見

- 子どもの心を把握した作りになっているのでよい。アルバムにして理解しやすい説明であった。
- 保護者と一緒に、患児の理解できる言葉で点滴や絶食の必要性を直接説明している。説明した内容を紙に記入して枕元に貼る。一緒にキャラクターに色塗りをして患児の恐怖感を除く。
- 保護者と一緒に、患児の理解できる言葉で点滴や絶食の必要性を直接説明している。説明した内容をパンフレットに記入し、枕元に貼付している。一緒に、キャラクターに色塗りなどの遊びを通して上記の説明を行うと、恐怖感をあまり持たないよう思われる。

4. 小児外科 12例

- 1) 術前オリエンテーション 2例 (17%)、疾患・手術説明 9例 (75%)、検査説明 1例 (8%)
- 2) プリパレーションの形態；パンフレット 6例 (50%)、ビラ 3例 (25%)、写真 3例 (25%)、ビデオ 1例 (8%)
- 3) 対象年齢；幼児 8例、小学生 8例、中学生 5例、高校生以上 4例
- 4) 使用頻度；対象児の全部 5例、対象児の一部 3例、まだ未使用 1例

5) 子どもへの効果；

ほとんど効果は見られない 0例 (0%)  
 治療をある程度理解し、多少協力的になった 7例 (58%)  
 治療を理解し、意欲的に参加するようになった 1例 (8%)

6) 子どもへのプリパレーションに対する保護者の理解や反応；

ほとんど理解せず、反応も乏しい 0例 (0%)  
 ある程度理解し、多少好感を持ってくれた 4例 (33%)  
 よく理解し、好感を持ってくれた 4例 (33%)

7) 使用してみたの感想など

◆肯定的意見

- 手術前に、外来で麻酔科医が、麻酔に使う用具、手術について説明する。入院している児に対しては、手術室看護婦が術前訪問する。手術室を見学したり、実際に使用するマスクなどを見せたりする。ICU入室になる児に対しては、ICUも見せる。
- ふだん健康で、突然に手術という事態に対するショックの緩和のため施行している。
- 麻酔の際に使う道具や手術についての理解を深める。
- 手術室入室の際、家族、特に母親の入室をしてもらう。
- 疾患についてのパンフレットは、小学校高学年から上位になると興味を示し、治療に対して協力的となり、スムーズに行くことが多い。
- スタッフ間では、統一されたものが提供で

- き、患者様の問題点など見えやすく、継続したケアができる。
- 子ども達が興味を示すアニメなどを使用したり、チェック表を使用することでやる気も出てきている。
  - 保護者と共に説明。ビデオを使用。
  - 保護者と一緒の場面で、患児の理解できる言葉で点滴や絶食の必要性を直接説明している。説明した内容をパンフレットに記入し、枕元に貼付している。一緒にキャラクターに色塗りなどの遊びを通して上記の説明を行うと恐怖感をあまり持たないと思われる。
5. 小児科 40例  
(循環器 1例、血液科 1例、アレルギー科 2例、内分泌科 3例、腎臓科 2例を含む)
- 1) IgA 腎症 3例 (8%)、腎炎 2例 (5%)、腎不全 1例 (3%)、ネフローゼ症候群 2例 (5%)、気管支喘息 5例 (13%)、アトピー性皮膚炎 2例 (5%)、糖尿病・肥満 9例 (23%)、パルス療法 1例 (3%)、腹膜透析 1例 (3%)、治療薬の説明 1例 (3%)、感染予防 2例 (5%)、血小板減少 1例 (3%)、手術説明 1例 (3%)、検査説明(含、腎生検) 2例 (5%)、入院説明 3例 (8%)、外泊 1例 (3%)、
  - 2) プリパレーションの形態；パンフレット 27例 (68%)、ビラ 24例 (60%)
  - 3) 対象年齢；幼児 21例、小学生 35例、中学生 32例、高校生以上 30例
  - 4) 使用頻度；対象児の全部 31例、対象児の一部 8例、まだ未使用 0例
  - 5) 子どもへの効果；  
ほとんど効果は見られない 0例 (0%)  
治療をある程度理解し、多少協力的になった 21例 (53%)  
治療を理解し、意欲的に参加するようになった 19例 (47%)
  - 6) 子どもへのプリパレーションに対する保護者の理解や反応；  
ほとんど理解せず、反応も乏しい 0例 (0%)  
ある程度理解し、多少好感を持ってくれた 10例 (25%)  
よく理解し、好感を持ってくれた 30例 (75%)
  - 7) 使用してみたの感想など
- ◆肯定的意見
- 一動作ずつの場面が絵と文章で示されていて、手術室で行うことがイメージつきやすい。
  - おやつに含まれる塩分など、親は判りやすいといってくれる
  - 安静と運動レベルなど、理解しやすく、子どもはすぐ覚えることができる。自分のレベルを気にしている子が多く、自己管理できている。
  - 疾患教育の糸口となり、その後、個別的に教育するのに役立つ。
  - 不安の軽減につながる。これからの治療計画が判るのでよい。
  - 予防行動については、具体的に書いておりよく判る。絵が多く分かりやすい。
  - 小学生には少し難しいので、説明を判りやすく行っている。腎生検後の生活のパンフ

レットは、病室に貼ってあるので、本人も家族もよく判ると言ってくれている。

- 一緒に読みながらオリエンテーションをしている。特に入院時オリエンテーションでは、時間をかけてゆっくり丁寧に説明しているので、家族や本人の戸惑いは少なくなっていると思う。
- PD チューブのイメージが付きやすい。PD チューブの太さや部位がどのあたりか理解するためには、効果が期待できる。
- 計画的に繰り返し指導。初発入院が対象なので、徐々に反応を示してくる。
- 親子で読むため、家族にも協力が取りやすくなっている。
- 家庭における生活状況が判り、指導に生かせる。
- 家族とのコミュニケーションが取りやすい。
- 子どもの意欲に関係してくる。
- 指導の統一ができる(疾患ごとに作成している)。
- イラストが入っていると興味が増し、意欲的になる。
- 大きい子用、小さい子用と2種類作成しているため、利用しやすい。
- 集団、個人指導共に行いやすい。幼児、家族など全対象が判りやすく、興味深く楽しく学べる。
- 外泊日誌と共に冊子にしているため、いつでも見ることができ、病棟の内容が理解していただける。
- 入院前に送付し、自宅にて目を通してくるので、入院時のオリエンテーションの理解

は、以前より良くなったと思われる。

- 計画的に繰り返し指導している。初発入院が対象なので、徐々に反応を示してくる。親子で読み、スタッフとコミュニケーションが取りやすくなっている。
- 日課表は、子どもの入院生活がイメージできるようで、家での生活スタイルを照らし質問を受けることや、日課があることに安心される言葉が聞かれる。
- 子どもさんにとっても用紙に色塗りしたり、各々自分に必要なことを書き込んだりと、入院の生活に対して準備姿勢ができる一方法のようだ。看護婦自身も子どもとの確認がとれやすいようだ。
- 入院生活、治療への参加が、患者本人を主体として積極的にポジティブに受け入れ、向かってゆけることが大切と痛感している。まだまだ広げてゆかなければいけないと思っている。
- この通りにすれば「できる」という安心感があるので、子どもや保護者には好感を持ってもらえた。また、医療スタッフにとっては、どの部分の指導に重点を置けばよいか等を考える上で、大変参考になった。
- 保護者に対しては、アンケートをとる予定。子どもは実施後、プログラムにシールを貼ることが意欲につながっている。

#### ◆否定的意見

- 疾患については、あまり詳しくは触れていないので、もっと具体的に書いてあるものがあるのではないか。
- 具体的でないところには、説明を加えていく必要がある。

- ・小学校高学年以上の児を対象とした内容なので、幼児から低学年には少し難しいと思う。
- ・小学生から高校生まで年齢の幅があるので、本来はそれぞれの年齢に応じたものを作成した方がいいという意見が出ている。
- ・家族の反応とスタッフの反応を示すことで、治療意欲を期待しているが、時にはマイナスとなることもある。
- ・漢字が多く小学生には不適。家族中心の説明内容。絵は多いが、字が小さい。

0例 (0%)

ある程度理解し、多少好感を持ってくれた  
4例 (40%)

よく理解し、好感を持ってくれた

4例 (40%)

#### 7) 使用してみたの感想など

##### ◆肯定的意見

- ・ ミッキーマウスの絵が多い。紙芝居など患児の成長発達に応じて話ができる。手術室内にキャラクターのぬいぐるみをおき、壁に掲示物を貼っている。
- ・ 手術室の服装のまま術前訪問を行い、当日患児を受け入れる際、「昨日の看護婦さんだよ。覚えてる？」と声をかけると「うん」とうなづく反応がある。
- ・ 手術室内に、キャラクターのぬいぐるみや壁の掲示物をベット移動にあわせ、いろいろ見ることができる。泣いている児や表情の硬い患児も手を伸ばしてぬいぐるみを抱き、壁に掲示物を親に向けて見たりし、笑顔や反応が返ってくる。
- ・ 術前パンフレットは、判りやすくイメージしやすいとの回答を頂いている。
- ・ 前日に説明していたことを覚えていて、好きなキャラクターの指人形や枕、香りに接することを楽しみに来院する子どもが多い。母(父)同伴入室は、入室時に泣いたり嫌がったりする児はほとんどなく、不安や恐怖感の軽減に大きな効果があると思われる。
- ・ 患者に術前のオリエンテーションを実施する際、手術室の中の様子を見せながら説明する。「写真と同じ」とか「写真で見たよ」とか反応する場合もある。

#### 6. 手術室 10例

- 1) 術前オリエンテーション 6例 (60%)、検査説明 1例 (10%)、環境整備 3例 (30%)
- 2) プリパレーションの形態；パンフレット 2例 (20%)、ピラ 2例 (20%)、写真 3例 (30%)、ビデオ 2例 (20%)、キャラクターのぬいぐるみ・絵・バッチなど 4例 (40%)
- 3) 対象年齢；幼児 7例、小学生 9例、中学生 6例、高校生以上 5例
- 4) 使用頻度；対象児の全部 7例、対象児の一部 0例、まだ未使用 1例
- 5) 子どもへの効果；  
ほとんど効果は見られない 0例 (0%)  
治療をある程度理解し、多少協力的になった 4例 (40%)  
治療を理解し、意欲的に参加するようになった 4例 (40%)
- 6) 子どもへのプリパレーションに対する保護者の理解や反応；  
ほとんど理解せず、反応も乏しい

- 手術室はアルバムを使用。
- 学童期で理解力のある子どもは、自分でマスクを持ち、外来での練習を生かして協力的である。手術室内の様子をビデオで見ることができ、保護者も安心している。
- マスクを実際に手に持ち、口にあててスーハーと行ってみる。当日、麻酔導入時に、自分でマスクを持ちスーハーできる児もいる。スーハーするとき、患児に「何のにおいかな」と再度声をかけ、そのにおいをしっかり吸ってもらうよう声をかけると、深呼吸できる。
- 子どもの心を把握した作りになっているのでよい。アルバムにして判りやすい説明であった。

#### 7. 検査科（臨床検査部） 4例

- 1) 検査説明 3例（心電図 1例、脳波 1例、エコー 1例）、環境整備 1例
- 2) プリパレーションの形態；パンフレット 1例、ビラ 1例、キャラクターのぬいぐるみ・絵・バッチなど 1例、
- 3) 対象年齢；幼児 1例、小学生 1例、中学生 1例、高校生以上 1例
- 4) 使用頻度；対象児の全部 4例、対象児の一部 0例、まだ未使用 0例
- 5) 子どもへの効果；  
ほとんど効果は見られない 0例、  
治療をある程度理解し、多少協力的になった 1例、  
治療を理解し、意欲的に参加するようになった 0例
- 6) 子どもへのプリパレーションに対する保

護者の理解や反応；

- ほとんど理解せず、反応も乏しい 0例  
ある程度理解し、多少好感を持ってくれた 1例  
よく理解し、好感を持ってくれた 0例

#### 7) 使用してみたの感想など

##### ◆肯定的意見

- 以前は検査者が患者、保護者へ検査の説明だけであったが、子どもにも判りやすい説明書を作成し、見ながらどういう検査か説明するので、子ども達が理解してくれて検査しやすくなった。
- 保護者が生理検査に関心を持つようになった。今後、生理検査部門において絵本、写真、ビデオなどを利用した、子ども対象のプリパレーションを考えたいと思う。

#### 8. 栄養科 8例

- 1) 栄養指導 4例（うち、糖尿病 1例）、献立表 3例
- 2) プリパレーションの形態；パンフレット 3例、ビラ 4例
- 3) 対象年齢；幼児 4例、小学生 5例、中学生 4例、高校生以上 0例
- 4) 使用頻度；対象児の全部 3例、対象児の一部 0例、まだ未使用 0例
- 5) 子どもへの効果；  
ほとんど効果は見られない 0例、  
治療をある程度理解し、多少協力的になった 1例、  
治療を理解し、意欲的に参加するようになった 2例
- 6) 子どもへのプリパレーションに対する保

護者の理解や反応；

ほとんど理解せず、反応も乏しい 0例

ある程度理解し、多少好感を持ってくれた

た 0例

よく理解し、好感を持ってくれた 3例

7) 使用してみたの感想など

◆肯定的意見

・ 予定献立の漢字にひらがなを入れ、季節感を感じていただくため、イラストも入れるようにしている。子ども達は予定献立とイラストを楽しみにしている。

・ 子ども用の栄養指導のパンフレットは、イラストを中心に構成されている。見てわかりやすいと言われる。

・ 以前は「糖尿病の食品交換表」のみを使用していたので、「教本」という意識がはたらき、子どもや家族の方の反応は鈍かった。特に、食品交換表の使用などの説明は、子どもには理解しにくく、苦勞していたが、この冊子を利用することで楽しい挿し絵を見ながら説明ができるので、「面白くて楽しい挿し絵がいっぱい」と、中には色塗りしたりして手を加えている子どももいる。

・ 栄養科としては、事前にアレルギー、偏食等食事の問題のある入院予定児の親と話し合い、入院の食事について献立、家族指導を目指して話し合う。アレルギー外来からの入院には、この相談が大切と思う。

9. 集中治療室 (ICU) 3例

1) ICUオリエンテーション 2例、環境整備 1例

2) プリパレーションの形態；パンフレット

1例、ピラ 1例、写真 1例、キャラクターのぬいぐるみ・絵・バッチなど 1例、

見学 2例

3) 対象年齢；幼児 2例、小学生 2例、中学生 1例、高校生以上 0例

4) 使用頻度；対象児の全部 1例、対象児の一部 1例、まだ未使用 0例

5) 子どもへの効果；

ほとんど効果は見られない 0例、

治療をある程度理解し、多少協力的になった 2例、

治療を理解し、意欲的に参加するようになった 0例

6) 子どもへのプリパレーションに対する保護者の理解や反応；

ほとんど理解せず、反応も乏しい 0例

ある程度理解し、多少好感を持ってくれた 2例

よく理解し、好感を持ってくれた 0例

7) 使用してみたの感想など

◆肯定的意見

・ アニマルバッチ、紙芝居、児心音の出るぬいぐるみ (乳児)

・ 職員が説明する際の助けとしている。年齢に応じて説明を行っている。

・ ICU入室になる児に対しては、事前にICUを見せる。

・ ICU看護婦が行う。手術後ICU入室が決まった場合は、術前に訪問し、手術室とICUを実際に見せて説明し、看護婦、医師を紹介し、声かけやわかる子どもには紹介する。

## 10. 外来 8例

(全科 3例、小児科 1例、小児外科 3例、  
整形外科 1例)

- 1) 入院オリエンテーション 1例、疾患・手術説明 3例、環境整備 3例
- 2) プリパレーションの形態；パンフレット 2例、ビラ 1例、写真 1例、ビデオ 1例、キャラクターのぬいぐるみ・絵・パッチなど 3例
- 3) 対象年齢；幼児 7例、小学生 7例、中学生 3例、高校生以上 3例
- 4) 使用頻度；対象児の全部 7例、対象児の一部 0例、まだ未使用 0例
- 5) 子どもへの効果；  
ほとんど効果は見られない 0例、  
治療をある程度理解し、多少協力的になった 5例、  
治療を理解し、意欲的に参加するようになった 2例
- 6) 子どもへのプリパレーションに対する保護者の理解や反応；  
ほとんど理解せず、反応も乏しい 0例  
ある程度理解し、多少好感を持ってくれた 5例  
よく理解し、好感を持ってくれた 2例
- 7) 使用してみたの感想など

### ◆肯定的意見

- ・ 処置室は、採血、点滴などの処置をする子どもにとって怖い場所で、子どもも敏感に察知し、泣こうとする。そこで、寝かされて天井を見たときに、アンパンマンの絵と「がんばってね」の児が飛び込んできて、

一時気を取られたり、看護婦に促されてみて覚悟のできる子どもも比較的多い。(天井にアンパンマンの絵)

- ・ 人気キャラクターは、子どもはほとんど知っている。次に行くところの場所を説明するときに、キャラクターも付け加えると、子どもの方がめざとく見つけて親を連れていったりする。(各部署にキャラクターのぬいぐるみをおく)
- ・ 絵が描いてあると気持ちが和むし、絵の中身でその場所がそんなことをするところか判る。患者や保護者からも、優しい絵でも心が和むとの意見が寄せられている。(壁などに書かれた恐竜の絵、検査や診察などを絵にしている。)
- ・ 手術当日の流れを理解することで、子どもも保護者も安心するようである。

## II. クリティカルパスの実施状況について

(小児科 1例、循環器科 2例、小児外科 2例、心臓外科 1例、整形外科 1例、耳鼻科 1例、眼科 1例) 計19例

- 1) 内容；気管支喘息 2例、アレルギー性紫斑病 1例、川崎病 1例、尿路感染症 1例、鼠経ヘルニア 2例、臍ヘルニア 2例、包茎 1例、心臓カテーテル検査 2例、扁桃腺・アデノイド摘出術 1例、漏斗胸 1例、ペースメーカーバッテリー交換術 1例、心房中隔欠損症 1例、心室中隔欠損症 1例、斜視 1例、骨盤骨切術・関節形成術 1例
- 2) 対象年齢；幼児 3例、小学生 10例、中学生 9例、高校生以上 2例



3) 使用頻度；対象児の全部 4例、対象児の一部 3例、まだ未使用 4例

4) 子どもへの効果；

ほとんど効果は見られない 2例 (10%)

治療をある程度理解し、多少協力的になった 9例 (47%)

治療を理解し、意欲的に参加するようになった 0例 (0%)

5) 子どもへのプリパレーションに対する保護者の理解や反応；

ほとんど理解せず、反応も乏しい 0例 (0%)

ある程度理解し、多少好感を持ってくれた 4例 (21%)

よく理解し、好感を持ってくれた 6例 (32%)

6) 使用してみた感想など

◆肯定的意見

・ 経過がわかりやすいとの家族の声が聞かれる。たまに「僕、知ってるよ。頑張るよ」という声も聞かれた。スタッフからは、統一したケアができて判りやすいとのこと。

・ 子どもが好きなキャラクター入りで良かった。スケジュール表に沿って説明を受けたので、聞いていてよくわかった。

・ パスに沿って、術前後の処置・注射、内服薬、食事などを説明することにより、適確な検査前オリエンテーションが行え、説明もれがなくなった。

・ 母親からの感想として、術後の食事の段階がよくわかった。術後の抗生剤の吸入や痛み止めを飲む時間をきちんと書いてあるの

で、毎日何をするかがよく判る。看護婦の感想として、手術を受ける子どもや母親と十分にコミュニケーションを図る時間が持てる。

・ 新人教育にも利用でき、看護婦が一定の質でケアが効率よく提供できる。

・ 母親からの感想として、見やすくわかりやすかった、術前後の食事、点滴、入浴など経過が一目で見て判りよかった、退院までのスケジュールが予測できたので、安心したなどがあった。

・ 家族用の説明として作成した用紙だが、児の年齢、理解度に応じて使用している。作成してからまだ使用する機会が少なく、また、子どもや保護者の方に用紙についての確認意見は頂いていない。

・ 患者や家族は、治療経過がわかり安心でき、事前に心づもりができるとの反応。

・ 職員は統一した看護、チーム医療がスムーズにできると言う反応あり。

◆否定的意見

・ A4サイズで字が小さい。

・ もう少しシンプルにした方がわかりやすい。

### III. 全国の子ども病院から報告された写真について

計 274枚 (外来 36枚、病棟 102枚、手術室 45枚、ICU 19枚、NICU 14枚、放射線科 34枚、臨床検査室 15枚、栄養科 6枚、薬剤科 3枚)

1) プリパレーションの種類；子どもが気持ちを落ち着かせる環境整備関連 69枚 (25%)、

インフォメーション 29枚 (11%)、入院オリエンテーション 49枚 (18%)、術前オリエンテーション 55枚 (20%)、ICUオリエンテーション 21枚 (8%)、病気の説明 26枚 (9%)、検査の説明 17枚 (6%)、栄養の説明 6枚 (2%)、薬の説明 2枚 (1%)

2) プリパレーションの方法；パンフレット (アルバム) 54枚 (20%)、ポスター 8枚 (3%)、写真15枚 (5%)、パネル 26枚 (9%)、実際の物品 8枚 (3%)、キャラクターのぬいぐるみ 37枚 (14%)、絵 48枚 (18%)、バッチ 2枚 (1%)、壁紙 9枚 (3%)、紙芝居 68枚 (25%)

### 【考察】

以上、小児総合医療施設協議会加盟の子ども病院に対して、子どもに対するプリパレーションとクリティカルパスの実施状況について調査を行った。

プリパレーションは、通常「心理的準備」と訳されている。子どもが疾病に罹患したり、入院を余儀なくされた場合に、発生しうる心理的混乱を予想し、前もって可能な限りの準備を整えることによって、逆に子どもの状況対応能力を引き出すことがプリパレーションの最大の目的といえる。

Vernonら (1965) によれば、プリパレーションの目的は、「子どもへの正しい知識の提供 (資料写真1、2、3、4参照)」「子どもに情緒表現の機会を与えること (資料写真5、6、7、8参照)」「心理的準備を通じた医療スタッフとの信頼関係樹立 (資料写真9参

照)」であるとされる。

これらの視点から見て、今回の調査に回答を行った施設の大部分において、子どもの疾患が急性疾患であれ慢性疾患であっても、それぞれが努力し、相当の成果を上げているものとする。

しかし、プリパレーションの効果についてみると、子どもの治療や検査に対する理解の深まりや不安や拒否といった反応が軽減されるといった評価は比較的低かった。反面、保護者に対しては、プリパレーションを行うことによって優れた成果を得ている点が特筆される。

何故に、子どもの理解や反応が低かったのが今後の課題となるが、キャラクターグッズを除き、安価で簡便なプリパレーションツールはほとんど存在せず、各部署の自主努力による手作りのツールがそれぞれ使用されている点など、日本における子ども向けのプリパレーションが未だ未成熟な段階にあることを示唆する結果となった。

プリパレーションツールとして、特に欧州で初等教育などに使用されている「Play Mobil」を写真で紹介する。生産国はドイツで、日本ではあまり量販されていないが、手術室セットで、価格は数千円程度である。日本においても、このようなツールが開発されていけばと願うものである。

一方、回答を得られたクリティカルパスにおいては、それぞれの疾患における「時間設定」「業務内容 (食事、治療、検査、患者の行動制限など)」「基準、手順」などの因子については包括的に網羅されているものの、特に

幼少児に対しては難解な表現、表記となっていた。思春期の患児や保護者向けとしては、内容が理解しやすく適したものであったとしても、幼児や学童を対象としたものとして評価するならば、まだまだ改善や工夫が必要とされている。

今回の調査においては、子ども向けのクリティカルパスについては回答が少なかった（資料図1、2、3）。その背景には、まだ、子ども向けのクリティカルパスの必要性が十分に認識されていない、あるいは認識されていたとしても、その準備状態にあるということではないかと推察される。

- 元来、クリティカルパスは、
- ① 医療の質の向上、とくに疾病毎の標準的な治療計画が明示されること。
  - ② インフォームド・コンセントの充実、とくに検査や治療内容、治療スケジュール等を把握することが可能となり、患者が主体的に治療に参加することが出来るようになること。
  - ③ 業務の効率化と明確化
  - ④ 在院日数の短縮化
  - ⑤ チーム医療の強化

といったことが、その利点として取り上げられている。しかし、とかく在院日数の短縮化のみが強調されがちである。

子ども向けのクリティカルパスは、子ども自身が、主体的に検査や治療に参画すること、そしてそれらの流れを理解し、十分に心の準備を整えつつ医療を受けるという意味で、小児医療にとっては極めて重要な課題である。したがって、子ども向けのクリティカルパスについては、今後も継続的な調査研究を行っ

ていくことが必要であると考えられた。

また、子ども向けのクリティカルパスとプリパレーションとが有機的に活用されることによつて、入院児のQOLも著しく向上していくことが期待される。全国の小児病院における一層の工夫と発展に期待したい。

### 【結語】

日本小児総合医療施設協議会加盟施設を対象として、「子ども病院」における、子どもを対象としたプリパレーションの実態調査を行い、その結果を報告し、考察を行った。また、子ども向けのクリティカルパスの実態調査も併せて行った。その結果、プリパレーションについては、幼児、学童等、年齢に応じたより一層の工夫が必要なこと、また、プリパレーション・ツールの開発が必要なこと、子ども向けのクリティカルパスについては、まだ試行的な段階にあり、これからの課題となっていることが示唆され、今後の発展に期待したい。

最後に、日々多忙な折り、本調査にご協力を頂いた方々に深く感謝申し上げます。

### 【資料：調査票】

〇〇子ども病院 〇〇院長 殿

子ども向けのプリパレーションについての調査へのお願い

ますますご清栄にてご活躍のことと存じま

す。

これまで、小児総合医療施設協議会加盟の「子ども病院」を対象として、子どもの入院環境をより快適にするためには、何を整備していくことが必要かについて調査研究を行ってまいりました。

今般、厚生科学研究「子どものためのインフォームドコンセントを推進するプリパレーションツールの開発（研究班長：順天堂大学医学部・山城雄一郎教授）」という課題にて、分担研究者として「子ども病院」における、子どもを対象としたプリパレーションの実態調査を行うこととなりました。

子どもを対象としたプリパレーションとは、例えば手術や麻酔、処置や検査、あるいは治療や入院生活のガイダンス等を子どもに説明するための、幼児や学童向けの絵本やイラスト、人形、あるいは写真やビデオ等を意味しております。これらにつきまして、各「子ども病院」の工夫を集積し、最終的にそれぞれの工夫を全国の「子ども病院」をはじめ、小児科領域で共有化していこうという試みであります。

また、子ども向けのイラスト等を工夫したクリティカル・パスがありましたら、それについてもご協力をいただければ幸いと存じます。

別途、貴院の看護部(科)長様に、具体的にご依頼をお送りいたしました。看護科をはじめ、検査科、薬剤科、放射線科、栄養科等を含めまして、ご協力のほどよろしくお伝えいただけますれば幸いと存じます。

ご多忙の折りに大変恐縮に存じますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

東京都立母子保健院長 帆足 英一

## 〇〇子ども病院 〇〇看護部長殿

### 子ども向けのプリパレーション

#### についての調査へのお願い

ますますご清栄にてご活躍のことと存じます。

今般、厚生科学研究「子どものためのインフォームドコンセントを推進するプリパレーションツールの開発（研究班長：順天堂大学医学部・山城雄一郎教授）」という課題にて、分担研究者として「子ども病院」における、子どもを対象としたプリパレーションの実態調査を行うこととなりました。

子どもを対象としたプリパレーションとは、手術や麻酔、処置や検査、あるいは治療や入院生活のガイダンス等を説明するため、幼児や学童向けの絵本やイラスト、人形、あるいは写真やビデオ等を用いて、子どもが治療を理解し、不安を軽減し、積極的に参加できるようにしようとするものであります。本調査は、各「子ども病院」の工夫を集積し、最終的にそれぞれの工夫を全国の「子ども病院」で共有化していこうという試みであります。また、子ども向けのイラスト等を工夫したクリティカル・パスがありましたら、それにつ